

大蔵省スキャンダルと岸本周平の米留学からわかること

(ジャパンハンドラズ 2012年06月28日)

アルルの男・ヒロシです。

民主党の反小沢派議員が消費増税法案で反対票を投じた 57 人の民主党議員への厳正処分を求めて一年生議員らと一緒に首相官邸を訪問したという。

その一年生議員らを率いていたのが岸本周平衆議院議員。少し前のブログでカーティスの弟子として紹介した元大蔵官僚の議員である。



岸本は元大蔵官僚でもあり、米留学組のカーティスの弟子でもある。アメリカにとっては財務省の勝栄二郎らと連携し、消費増税をやらせるには実に最適な人選だったわけだ。

では、その岸本周平とは何者か。

1980年東京大学法学部卒業

1980年大蔵省入省

1985年名古屋国税局 関税務署長

1986年内閣総理大臣秘書官付

1990年大蔵省 主計局主査

1995年プリンストン大学 国際問題研究所 客員研究員

1996年プリンストン大学 東洋学部 客員講師

1998年大蔵省 国際局 アジア通貨室長

2000年通商産業省 情報処理システム開発課長

2001年経済産業省 文化情報関連産業課長

2002年財務省 理財局 国庫課長

2004年4月、財務省退官、トヨタ自動車(株)入社 10月、内閣府政策参与兼務

2005年8月、トヨタ自動車(株)、内閣府退職

以上が岸本のウェブサイトにある経歴である。米留学が95年である。

だが、岸本は自分のブログで「ある事件」について語っている。それは98年に大蔵省接待汚職事件で話題になったノーパンしゃぶしゃぶ事件についてである。岸本もまたエリート官僚としてその接待を受けたという告白である。

(岸本の名前がない顧客リストは、<http://www.rondan.co.jp/html/news/roran/>)

以下は岸本のブログから。

(引用開始)

ノーパンしゃぶしゃぶの店に行きマスコミに騒がれた件は事実です。あれは、マスコミに書かれるよりもかなり前の今から 20 年くらい前のことです。まだ 30 代でした。先輩に連れられて、2 回行きました。問題は、これが接待であったことです。自分でお金を払っていれば、趣味が悪いということですからむでしようが……。

当時は、バブルの時代でもあり、高級な料亭でも接待をされることがありました。誰もがそのような風潮に慣れていましたが、それは言い訳にもなりません。

そのことで、私は人生が変わるほどの制裁を受けました。

友人だと思っていた人、仲間だと持っていた同僚も離れていきました。その他にも、それは本当に言葉では言えないくらいの辛い思いを経験しました。

しかし正直、そういうことがあったおかげで、私は深く自分の過ちを反省することができました。

自分の在り方について、行動についていつも深く考え、自問するようになりました。それは後の私の人生の方向を変えるきっかけとなった気がします。

その後、私は、米国プリンストン大学の客員講師などを経て、財務省、経済産業省の課長を務めました。そしてトヨタ自動車に移籍しました。そこでは、奥田経団連会長の政策スタッフを務めながら、内閣府の政策参与も兼務させていただきました。(略)

ただ、人生は一度きりです。私は、官庁や財界で働き、米国の大学で教えるなど多くの経験を通じて、自分には日本の政治を、そして和歌山の未来を良く変えることができる知識と能力経験があるという自信ができました。

なぜなのか、自分にも説明ができないのですが、世の中を良くして行く為に、動かなくてはいけないという、突き上げる何かが私の奥底にあるのです。

<http://blog.goo.ne.jp/shu0712/e/03c51d15b50fb9d1d53fee9a67ebc732>

(引用終わり)

不思議なのは岸本が米留学したのが 95 年であり、問題のノーパンしゃぶしゃぶ事件が発覚したのは 98 年のことであるという点だ。96 年にはプリンストンの客員講師になっているが、それでも 98 年には日本に戻っている。

つまり、岸本が米滞在から帰国して出世を歩みはじめたころに、問題の事件が報道されている。そして、岸本がその種の店に行ったのは「バブルの頃」と書いている。これも時期として合わない。

ただ、彼の記述からわかるのは、省内や彼の周辺でその種の接待が事件発覚より前に問題になっていたということだ。おそらく省内で内々に人事の移動などもあったのかもしれない。この接待のあと、彼は『中年英語組』を書くきっかけともなる米留学（プリンストン大学客員研究員）を果たしている。

中年英語組 ―プリンストン大学のにわか教授（集英社新書）
岸本 周平 / 集英社

ここから先は私の仮説だが、バブル当時のノーパン接待発覚後、少なからず将来を嘱望されていた官僚たちがアメリカに留学させられたのではないか。だから、98年のリストに載っていた官僚たちは後のほうに発覚した顧客であるということになる。バブル期に接待を受けていた官僚たちはさっさと次々に米留学をしたのではないか、ということだ。これによって、日本国内での嵐から逃れることが出来る。

その事によって米国は日本の統治機構である官僚組織の情報収集を可能にし、来る90年代末から始まる構造改革の準備を行うことが可能になった。

アメリカは、冷戦末期は日本の官僚機構をソ連よりも恐れていた。何としてもこれをアメリカに追従する組織に作り替えたい。これがクリントン政権における日米経済冷戦のテーマだった。

このことが、CIAによる「大蔵省ノーパンしゃぶしゃぶスキャンダル追及」の原動力になっていた。官僚機構をまず徹底的に叩く、そのあとでアメリカのグローバリズム路線に叶う官僚と、そうではない愛国派の官僚をふるいにかけて分類し、前者の勢力が強くなるようにメディアを使って世論形成を行う。だから消費増税をアメリカが歓迎するのも当然である。

財務省は主税、主計、国際局と一見対立構造があるようにみえるが、上からそれをすべて管理しているのがアメリカ財務省だろう。この構造を見ぬかなければならないのである。

その意味で岸本周平という官僚あがりの政治家のキャリアパスを知ることは、「いかにしてアメリカが日本の官僚をコントロールしているか」ということを理解する、絶好のサンプルとなるわけだ。岸本は民主党、財務省、アメリカをつなぐパイプ役であるわけだ。

それから消費増税に民主党が追い込まれていったことについては、昨日の夕刊フジに驚くべき事実暴露があった。

<http://www.zakzak.co.jp/society/politics/news/20120627/plt1206271811009-n1.htm>

鳩山政権時、「徹底したムダ削減」を唱えていたことが批判された。結果的には事業仕分けでも十数兆円の予算は捻出できなかったわけで、この点で鳩山政権は失敗した。ところが、「予算・財源などいくらでも捻出できる」と民主党議員に宣伝を行ってきたのが、なんと消費増税派の頭目である元大蔵官僚の藤井裕久財務大臣（当時）であることが判明した。

小沢グループの議員の一人は夕刊フジの取材に対し、「2009年、私は藤井さんから『無駄はいくらでもある、財源はひねり出せる』とレクチャーを受けた。思い出して悔しくなりました」と語っている。これはどういうことか。増税派の頭目である藤井が、「財源はひねり出せる」と民主党議員を騙したことになる。



財務省は以下のようなシナリオで民主党を増税に追い込んだのだろう。

(1) まず、藤井裕久財務大臣や財務官僚が「予算の組み替えさえすれば『財源などいくらでもひねり出せます』」という囁き攻撃を鳩山政権や民主党議員に行う。

(2) 財務省主導、仙谷由人の協力の下「事業仕分け」(=仙谷いわく「政治の文化大革命」)を行わせるが、思ったほど財源の捻出ができないことを明らかにする。

(3) ギリシャ危機に漬け込んで、菅直人首相や野田佳彦財務大臣の耳元で「日本をギリシャにしないために消費増税を」と囁く。藤井裕久はこの時点ではボケた振りをする。

(4) 大震災につけ込み、こんどは復興増税を実施。増税に対するアレルギーを徐々に取っ払うとともに、野田首相の耳元で「次の世代の子供のために増税が必要だ」と勝栄二郎や真砂靖次期次官が囁く。岸本周平ら元財務官僚の民主党議員たちが仙谷と組んで増税路線を推進する。

というわけである。藤井裕久こそがやはりスパイだった。財務省に頼った時点でアウトだったのだ、民主党政権は。

<http://amesei.exblog.jp/16162343/>

(参考記事)

民主党：亀裂は深まるばかり 処分問題が本格化も

(毎日新聞 2012年06月28日 00時10分)

民主党は27日、消費増税法案の衆院採決で造反した72人に対する処分問題の検討を本格化させた。党の亀裂は深まるばかりだ。法案に賛成した議員らが造反者への厳しい処分を求めて野田佳彦首相に直談判に及ぶ一方、党分裂回避を優先する輿石東幹事長は除籍(除名)処分を見送る意向を改めて強調した。小沢一郎元代表のグループ議員は街頭で「増税は公約違反」と訴えた。事実上の分裂状態に陥った同党で、遠心力が強まっている。

岸本周平氏や江端貴子氏ら法案に賛成した当選1回議員11人は27日、首相官邸に野田首相を訪ね、「重い決断で賛成した。反対者が同じ扱いはおかしい。厳正な処分をお願いしたい」と造反者へ

の厳しい処分を申し入れた。

岸本氏らは衆院一体改革特別委員会の委員。首相は「お疲れさまでした」と語るだけで、処分への言及は避けた。

小沢グループは次期衆院選前の離党・新党を視野に、増税反対をアピールして支持獲得を目指している。賛成派議員はそのあおりで、強い逆風を受けかねない。渡部恒三元衆院副議長は27日の党常任幹事会で「50人も反対して結束と言えるのか。しっかり対応しないと党がなくなる」と警鐘を鳴らした。

<http://mainichi.jp/select/news/20120628k0000m010076000c.html>

【付録】

社会保障と税の一体改革関連法案採決にあたって（鳩山由紀夫）

BLOGOS（ブロゴス）PC版 2012年06月26日15時55分

私は6月26日の衆議院本会議に緊急上程される「社会保障と税の一体改革関連法案」の採決において、政府提案の消費税法改正案については、反対いたしました。

3年前の政権交代で国民が望んだのは、これで日本の政治が変わるということではなかったのでしょうか。そして、その多くの声に応えるために、最もしなければならなかったことは既得権との戦いであったはずでした。既得権により身動きが取れなくなっている政治、経済の現状を変え、国民の皆さまが主人公になって、もっと不公平感なく豊かさを感じて生きていけるような世の中にしよう、というのが我々の主張であり、官僚任せの政治から政治主導へ、それも国民が主導する政治にしようということでした。そのために総理大臣にまで押し上げて頂き、国民の圧倒的な支持の下、既得権に甘えた集団にメスを入れる努力をしました。しかし、米国の意向を忖度した官僚、財務官僚、大手メディアなど既得権側の抵抗は凄まじいものがありました。その力に十分抗し得なかったのは私の不徳の致すところと申し訳なく思っています。

私が目指した方向は決して間違っていないかと今でも思っていますが、その後の政権が、私を反面教師にして、「官僚、米国に抵抗したからうまくいかなかったのだ、そこをうまくやればいいのか」と180度民主党の進むべき方向が転換されました。

何のために政権交代がなされたのか、という憤りを強く感じています。再稼働を含む原発問題、TPPも全く同じ発想です。

そしてこの消費税増税法案です。消費税を上げることは、官僚中の官僚組織、財務省の悲願なのです。この増税法案に対して地元の意見を聞きました。79%の方が反対意見でした。また、消費税のアップはいずれやらなければならないとも多くの人々が思っています。しかし、とくに地方にお

住まいの方々にとって、一人平均 10 万円の増税はとても家計を厳しくしてしまうのではないでしょう。まずは景気を良くすることが最優先です。

私は、「4 年間は消費税を上げる必要はない」というマニフェストを掲げて戦った張本人であり、その間に、野田総理も言ったように、シロアリ退治を徹底的にやるべきであり、シロアリ退治をしないで消費税を上げて、甘い汁を吸いに来るシロアリにたかられてしまうことになるのです。

社会保障と税の一体改革と嘯きながら、社会保障の部分がよく見えません。最低保障年金や後期高齢者の問題など、一番強く訴えたことを、これから国民会議にかけるということであれば、国民会議で結論が出た時に、その財源をどこに求めようかという議論をしても遅くありません。今民主党に必要なのは、原点に立ち返った政権与党としての理念と政策だと思います。

本来であれば今は、昨年 3 月 11 日に東北地方が受けた未曾有の大災害を、国民が一丸となって団結と絆の名の下に復興を目指して力を合わせて尽力している真最中の筈です。それが現実はその教訓を生かすことなくいつの間にか過去のこととして忘れ去られようとしています。

政治の責任は 3.11 を風化させてはならないのです。現執行部は政権与党としての使命を忘れ、先の選挙で国民が NG を出した旧態依然の自民党の姿そのものに成り下がってしまった感すらします。

原発事故の影響で今でも 16 万に及ぶ人たちが放射能の洗浄も行われず避難生活を不本意にも強いられているにも拘わらず、野田内閣は経済活動を優先するあまり、事故原因が究明されず国民の多くが疑問符を感じる中、原発再稼働に踏み切りました。そしてこの渦中に国民に負担を強いる消費税増税を自公民の談合政治で成し遂げようとは言語道断です。

民主党が政権与党として国民の期待を担うべきことは何なのでしょう。単なる消費税増税法案採決の数合わせだけをニュースの焦点として取り上げる報道も問題です。今はまだ東北復興の途中であり、福島原発事故を教訓として今何を論じていかなければならないかに気づかなければいけないのです。マスコミは政局を占っているときではありません。復興に向けて日本が一丸となっている真摯な日本国民の姿に世界の多くの人々が感銘を受けた事実を忘れてはいけません。

民主党の創業者として立派に振る舞ってほしい、という声も党内から頂いています。私は民主党を誰よりも愛していますし、その思いで今日まで行動してきたつもりです。

今は、民主党を正しい道に戻すことが私の役割であると思っていますし、間違っただけは絶対にやらないという覚悟で仕事をしたいと思っています。(鳩山由紀夫公式HPより)

<http://lite.blogos.com/article/41954/>